

# 令和3年度 狭山市立 入間野中学校 学校関係者評価表

※ 学校が行った自己評価の結果及びそれを踏まえた今後の改善方針について評価する。

※ 【評価の目安】

- A : よくできている。 (90%以上)
- B : 概ねできている。 (85%以上)
- C : あまりできていない。 (70%以上)
- D : できていない。 (70%未満)

領域	番号	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員から
			評価	説明	評価(文章表記)
学校運営全般	1	学校は、学校教育目標の達成に向けて、組織的に取り組んでいる。	A	・学校教育目標の完全な達成には加田まだ課題は残るが、プロセスにおいて学校運営全般に、一つの目標に向けて組織的な取り組みと対応がなされた。次年度にむけて、目標達成に向けてのアプローチの妥当性、有効性、経済性などを十分に検証する必要がある。	・安心感と満足感を与える学校として教育目標の達成に向けて先生方の協力体制がとれている点が素晴らしい。 ・コロナ禍ではあったが、生徒の生活を考え、適切な対応がとれていた。 ・二者面談があり、生徒と向き合っていると感じる。また、コロナ禍で生徒の悩みなどもアンケートなどを行い、早めに対応している。 ・いじめの問題は中学生では極めてじゅうようなので引き続き生徒の行動に注意が必要でです。 ・清掃も生徒ががんばっているようでゴミなども落ちていない、教室もきれいである。 ・生徒の党下校の様子は気になる場面がある。
	2	学校は、生徒の生活によく気を配り、問題に対して組織的に、迅速に対応している。	B		
	3	教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる。	B	・コロナ禍で保護者や地域との連携の機会が少なかったが、可能な限り、PTAや地域の声に耳を傾けて、学校への負託にこたえる学校運営に努めてきた。すべての負託にこたえる難しさはあった。	
	4	教師は、生徒理解に努め、一人一人の生徒の心の悩みに応えようとしている。	A		
	5	清掃が行き届き、学校がきれいである。	B		
	6	学校の施設・設備は安全に管理されている。	A		
	7	学校は保護者や地域の負託にこたえる学校運営を推進している	B		
学習	8	教師は、生徒が興味関心のもてる授業、わかりやすい授業を実施している。	B	・新しい学習指導要領に則り、教材研究に時間をかけ、ユニバーサルデザインに配慮した授業運営を推進し、生徒の学力向上に努めてきた。その結果、ICTの積極活用などを通して授業改善が図られ、国や県の学力テストの結果を見ても、生徒の学力向上が着実に図られつつある。	・社会全体でデジタル化が加速する中で、入間野中ではICTを積極的に活用した授業が展開されている。 ・集中して授業を受けており、素晴らしい学習態度である。 ・新しい取組が適切に進められ、学習面の充実が図られているように見受けられる。一つの指標として全学力調査の好結果が、学校や教師の姿勢を表していると思う。 ・小学校と連携し家庭学習の習慣化を図りたい。 ・わかりやすい例示をいれながら、生徒が楽しく学んでいる様子である。 ・生徒が質問できる雰囲気さらに進めてほしい、生徒が考える力をつけるようにしてください。
	9	教師は、生徒の基礎・基本の定着に努力し、学力の向上を図っている。	B		
	10	ICTを積極的に活用した授業が展開されている	A		
	11	生徒は、授業規律をよく守り、落ち着いた学習に取り組んでいる。	B		
	12	生徒は、家庭学習の習慣を身につけている。	B		
規律ある態度	13	学校は、行事等を通じて生徒のやる気を育てる指導に心掛けている。	A	生徒の自己有用感の醸成のため、密を避ける状況の中でも最大限に教育効果を引き出す、学校行事の企画運営を推し進めることができた。	・学校へ行くと、生徒が挨拶してくれるので気持ちよい。 ・防犯の考えから他人へのあいさつを控えていることもあると思うが、中学生らしくもう少し挨拶できてよいと思う(地域で)。 ・生活が充実してこそ自己肯定感は生まれるものと思う。生徒の自己肯定感が高いことは大変素晴らしいことで、学習や生活全般にわたって学校や教師のきめ細やかな対応があつてよい動いていると思う。声をかければ返ってくることもあるが、進んでのあいさつには課題がある。 ・挨拶や正しい言葉遣いの評価は残念であるが、全般的に規律ある学校生活が送れていると感じる。
	14	生徒は、TPOを踏まえ、あいさつや正しい言葉づかいができています。	C	・「入間野中生の品性を高める具体的な行動目標」を推進し、月ごとにフィードバックさせるなどして、学校全体で生徒の行為行動の質の向上を図り、生徒に意識化と行動の変容が見られるようになりつつある。ただし、TPOを踏まえた行動についての指導は工夫改善が求められる。	
	15	生徒は、きまりや時間を守って生活している。	B		
	16	生徒は、自他を大切に、思いやりのある言動がとれている。	B		
	17	教師は、自ら手本となり、規範意識を高めている。	B		
健康・体力	18	教師は、生徒の学校生活が充実するよう指導している。	A	・新型コロナウイルス感染防止の指導から、日々の検温を含む自己健康観察、手洗い、うがいの習慣化など、自己防衛体力は備わってきた。	・コロナ禍で生徒の健康維持は大変重要で、その対応は難しいものがあつたと思う。同じことの繰り返しで、マンネリ化に繋がり、油断や隙が生じやすいが状況改善まで予防がおろそかにならないようお願いしたい。 ・コロナでなかなか思うように体育や部活動ができないのが残念です。検温、手洗い、うがいは習慣になっている。 ・引き続き、感染対策には留意し、これまでの生活習慣を大切にしていきたい。
	19	生徒は、体育授業や部活動に意欲的に取り組んでいる。	B		
	20	生徒は、健康を意識し、自己の健康管理を意識している。	B		
地域との連携	21	学校は、教育活動に関する様々な情報を積極的に提供し、説明責任を果たしている。	A	・学校・学年・学級だより、学校ホームページ、保護者会、PTA広報誌などを通じて、学校の様子を積極的に提供することができた。今後は、保護者や地域の声を聴く機会を増やしたい。	・コロナ禍で人との関わりが断たれ、地域住民が目にはできる行事もなく、便り以外は学校の様子が見えにくい。地域と繋がる手立てを講じたい。入間野中らしい活動を期待する。 ・通常の社会生活に戻ったら学校、生徒の様子を知る機会を計画的に増やしていきたい。
	22	学校は、保護者や地域と連携・協力し、教育活動を行っている。	B		